



祐介の目

No.150

大田祐介 (福山市議会議員)

激戦の結果

今回の市議選は多くの現職が新人に票を奪われながらも議席を守り、新人の多くは低投票率ゆえに浮動票が少なく及ばなかったと思われる。56人ももの立候補者が出て投票率が前回より微増というのは不思議だ。多くが「子育て支援の充実」を訴えたが、公園等で子連れ夫婦等に接した候補者は冷ややかな反応にとまどった。また、多くがにわかになSNS等でネット選挙を展開したが、効果は限定的だった。私はどこに挨拶に行っても「大田さんは大丈夫」と言われ「私が入れなくても大丈夫でしょう」と聞こえて逆に危機感が増した。さらに20年の実績があつて新人に負けるわけにいかないと発奮した。まずキャッチフレーズを「福山をリハビリ！」とし、政策を芦田川河口堰の開放等目的を絞った。有権者に不評な後援会入会カードは廃止してLINE後援会とし、戸別訪問や電

話などの従来型選挙は極力控えめにした。事務所開きや出発式の動員はしなかったし、選挙中の決起集会は開催しなかった。選挙カーは騒音対策として車載スピーカーを4台から2台に減らし、街宣活動は日没で終了とした。

ネット選挙は、告示までにYouTube広告を流したところ、7万回以上の再生があつたし、「祐介の目」バックナンバー等を掲載したホームページには選挙期間中に10万以上のアクセスがあつた。メルマガやSNSも10年以上継続して発信した。やはり継続は力なりである。事務所の体制も私が候補者兼選対本部長をこなし、少数精鋭のスタッフによる家族型選挙であつた。結果として私の得票は前回より伸びた。4年間の活動に対する評価、訴えた政策への賛同、日頃からの情報発信の成果ではないかと感謝している。

では投票率を上げるにはどうすれば良いのか。安芸高田市議会のYouTubeは多くの方が観ているようだ。私には議員が悪代官役のリアル水戸黄門のように感じるが、議会中継による「見える化」は必須だろう。福山をリハビリする最初の一步ではないか。